

# ごみ分別早見表等の作成・改訂経緯および課題についての研究

金谷研究室 0912012 吉光寺里早

## 1. 背景・論点

現在のごみは、複合素材のもの（「はさみ」はプラスチックとステンレスの複合素材でできている）や同じ製品でも異なる素材でできているもの（「ざる」はプラスチック製、金属製などがある）などがあり、ごみの種類は実に多岐にわたる。それにより、分別に混乱が生じることが多々ある。

自治体では住民のごみ分別の指標として、自治体毎に独自の家庭ごみ分別早見表、家庭ごみ分別一覧表、家庭ごみ分別カレンダーなどの情報物を作成・配布しており、形態は詳細な冊子状のものから一枚物のチラシまで、実に様々である。これらは自治体から住民にごみ分別に関する情報を提供する、重要なものであると考えられる。

しかし住民に対し情報が正しく伝わらず、トラブルが起きる場合もある<sup>1)</sup>。また、自治体における家庭ごみ分別早見表等に関する研究は、2009年度金谷研究室近藤の卒業論文<sup>2)</sup>のみである。CiNii<sup>3)</sup>にて「ごみ」「分別」「表」等のキーワードで論文検索を行ったが、関連する研究は見つからなかった。近藤卒論では、ごみの掲載数が多いほど分別区分が不明なごみが少ない傾向があることがわかった。しかし、早見表等に対する市民の意見や評価、早見表等がどのような経緯で作成されたのか、早見表等の問題点などは明らかにされていない。よって本研究では家庭ごみ分別早見表等に着目し、研究を進める。

## 2. 研究の目的・意義

本研究の目的は、家庭ごみ分別早見表等の特徴(形態や掲載されている内容)を明らかにすることを目的 1、家庭ごみ分別早見表等が作成・改訂された経緯を明らかにすることを目的 2、わかりやすい早見表等の特徴を明らかにすることを目的 3 とする。

本研究により、自治体が住民にとってわかりやすいごみ分別早見表等を作成できると考えられる。

## 3. 研究方法

研究の目的を次のような方法で達成する。

- (1)調査対象地 150 市のごみ分別早見表等を入手し、ごみの掲載数などの情報をまとめる。なお調査対象地は、全国の全 788 市<sup>3)</sup>の中から無作為抽出によって 150 市を選出した。
- (2)対象地の早見表等を、ごみの掲載数や絵・写真の有無などの項目によって分類し、それぞれの特徴

を把握する。

- (3)調査対象地へのアンケート調査から、ごみ分別早見表等の作成・改訂の経緯や市民からの評価を明らかにする。
- (4)各早見表等の特徴とアンケートで得た市民からの評価を比較し、どのような早見表等がわかりやすいのか分析・考察を行う。

## 4. 結果及び考察

(1)家庭ごみ分別早見表等の特徴について

1)早見表等の種類・形態について

表 1 に、早見表等の種類・形態について示す。

表 1 早見表等の種類・形態

	あり		なし	
	市数	割合(%)	市数	割合(%)
インターネット検索機能	8	5.3	142	94.7
早見表	125	83.3	25	16.7
ポスター	91	60.7	59	39.3
外国語版	37	24.7	113	75.3

表 1 より、インターネット上での検索機能を作成している市は 8 市、していない市は 142 市でほとんどの市が作成していなかった。「家庭ごみ分別早見表」を作成している市は 125 市、作成していない市は 25 市であり、83.3%という多くの市は早見表を作成していた。また、早見表のない 25 市のうち 20 市がポスター状のごみ分別一覧表を作成していた。ポスター状のものを作成している市は 91 市、していない市は 59 市であり、作成している市は 60.7%であった。

1)ごみの掲載数

ごみの掲載数の最大は東京都青梅市で 2770 個、最小は香川県観音寺市で 39 個、平均は 684.6 個であった。掲載数 2000 以上は 4 市、100 未満は 7 市だった。以上から、ごみの掲載数は市によって大きくばらつきがあるといえる。1000 を超えるのは 40 市で全体の約 27%であり、全体の約 63.3%は 100~799 間であった。

2)絵の効果

表 2 に絵・写真の有無、絵・写真が効果的か、区分ごとの色分けの有無を示す。「絵・写真が効果的か」とは、早見表等に挿入されている絵・写真が効果的かを調査する。効果的かの評価は、場所、材質により区分が異なる場合、それが判断できるかで行う。

表2 絵・写真の有無，絵・写真が効果的か，区分ごとの色分けの有無

	あり		なし		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
絵・写真の有無	145	96.7	5	3.3	150
絵・写真が効果的か	35	24.1	109	75.2	145
区分ごとの色分け	65	52.0	59	47.2	125

表2より，早見表等に絵・写真がある市は145市で96.7%にあたるが，そのうち効果的な絵・写真がある市は145市中35市となり，24.1%にまで減少する．このことから，多くの市が絵・写真を掲載しているもののそのほとんどは挿絵の位置づけであるといえる．また区分ごとの色分けについては65市が行っていた．これらは住民にとって視覚的にわかりやすく，またとつきやすくするための工夫だと考えられる．

### 3) 詳細なルールの記載

表3に詳細なルールの記載の有無を示す．なお品目ごとの注意事項の有無については，家庭ごみ分別早見表について調査を行う．早見表を有する市は125市である．

表3 詳細なルールの記載の有無

	あり		なし	
	市数	割合(%)	市数	割合(%)
品目ごとの注意事項	112	89.6	13	10.4
収集できないごみの排出方法	148	98.7	2	1.3
家電リサイクル法対象品目の排出方法	115	76.7	35	23.3

表3より，品目ごとの注意事項を記載している市は125市中112市で89.6%である．注意事項の多さや詳しさに差はあるものの，ほとんどの市では品目ごとに注意事項を記載していることがわかる．さらに家電リサイクル法対象品目の排出方法を記載している市は115市である．また収集できないごみの排出方法を記載している市は，150市中148市で98.7%である．収集できないごみについての記載内容を表4に示す．

表4 収集できないごみについての記載内容

	全てあり		一部あり		なし		n
	市数	割合(%)	市数	割合(%)	市数	割合(%)	
問合せ先	5	3.4	25	16.9	118	79.7	148
排出方法	1	0.7	11	7.4	136	91.9	148

表4より，収集できないごみの記載内容としては，排出先・連絡先等の問合せ先の詳細，品目ごとの細かな排出方法である．しかし79.7%に当たる118市では「各販売店に問い合わせる」という旨の記載のみであった．排出先の記載がなくては，市民はどこ

に・どのように問い合わせればよいのか，また排出すればよいのか分からない．その結果，市への問い合わせの増加にもつながると考えられるため，排出先の連絡先等を詳細に記載することは重要である．

(2) 家庭ごみ分別早見表等が作成・改訂された経緯について

調査対象地である150市に対し，メールまたは郵送にてアンケート調査を行った(2013年8月23日～10月30日に実施)．表5に，アンケート票の一部抜粋したものを示す．

表5 アンケート票の一部抜粋

質問内容	有効回答
A. 回答者に関する質問	
B. 作成経緯に関する質問	
作成した理由	n=30
工夫した点	n=23
苦勞した点	n=26
作成前と比較した時の効果	n=28
C. 改訂経緯に関する質問	
改訂時期・頻度	n=97
D. 早見表等の内容に関する質問	
市民からの意見・要望・質問	n=52
市民から好評・不評な部分	n=46
今後の課題	n=73

表5より，アンケート内容は「回答者に関する質問」「作成経緯に関する質問」「改訂経緯に関する質問」「早見表等の内容に関する質問」の4つに分けられる．

### 1) 家庭ごみ分別早見表等が作成された理由

家庭ごみ分別早見表等が作成された理由を表6に示す．

表6 家庭ごみ分別早見表等が作成された理由

作成の理由	具体例	回答数	率(%)
分別が難しい		18	60.0
問い合わせが多い		14	46.7
分別状況が悪い		5	16.7
その他	分別方法の統一 (3)	16	53.3
	分別区分が見直された (3)		
	ルール変更 (2)		
	正しい分別方法の周知 (2)		

表6より，「分別が市民にとっては難しいと感じるため」，「分別に関する問い合わせが多いため」，「その他」が多い．「その他」では，市町村合併や家庭ごみ有料化に伴う分別区分の変更や，他自治体での作成事例が理由として挙げられた．

### 2) 改訂時期・頻度について

表7に，改訂時期・頻度について示す．

表7 改訂時期・頻度

改訂時期・頻度	回答数	率(%)
分別区分の変更時	55	56.7
変更点が多くなったら	34	35.1
数年ごとに	22	22.7
改訂しない	1	1.0
その他	12	12.4

表7より、改訂時期・頻度で最も多い回答は「分別区分の変更時」であった。また「変更点が多くなったら」を選択した市の多くは「分別区分の変更時」も選択していた。また「数年ごと」と回答した市のうち、13市が1年ごと、5市が2年ごと、2市が5年ごとと回答している。このことから、定期的な改訂時期を定めている市は少なく、分別区分など大きな変更点があった際などに合わせて改訂をする市が多いと言える。

3) 家庭ごみ分別早見表等を作成した効果

早見表等作成前と比較した時の効果について、表8に示す。

表8 早見表等作成前と比較した時の効果

効果	具体例	回答数	率(%)
問い合わせの減少		18	64.3
分別状況の改善		15	53.6
効果は感じない		1	3.6
その他	分別方法がわかりやすくなった(2)	9	32.1
	問い合わせ時に見ながら説明(2)		
	職員の情報共有		
	分別の移行がスムーズにできた		

表8より、「効果は感じない」と回答した市は1市であったため、28市中27市の担当者が作成の効果を感じていることがわかる。効果の具体的な内容としては「(市民からの) 問い合わせの減少」が18市で最多であった。また分別状況が改善したという回答もほぼ半数の15市が選択している。その他の意見としては、職員間で情報が共有できたため市民へ同一の案内が可能になった、電話での問い合わせ時に市民に見てもらいながら説明できるといった回答があった。以上から、早見表等の作成には問い合わせの減少など直接的な効果の他、職員間での情報の共有化など間接的な効果も期待できると考えられる。

(3) わかりやすい早見表等の特徴について

各調査対象地へ行ったアンケートの回答のうち、「問19 市民からの意見・質問・要望」「問20 市民から好評・不評な部分」「問21 今後の課題」の回答の中から、早見表等について市民から「詳しい・詳しくない」「わかりやすい・わかりづらい」という旨の意見があったと回答した市をまとめ、それぞれ

の市の早見表等の特徴と比較をし、結果をまとめた。

1) 早見表等の詳しくさ

詳しくさについて回答があった市を各市のごみの掲載数と比較し、その結果を表9に示す。なお「詳しくない」は、ルールを細かく掲載してほしい、内容が詳しくないといった内容の回答をまとめた。

表9 早見表等の詳しくさについての調査結果

詳しくない (7市)	A2市	A4市	A5市	B4市
	101	109	121	976
詳しい (3市)	C3市	D3市	D6市	平均
	1206	101	825	491.3
				平均
				1436.3

表9より、詳しくないという意見があるのは7市で、それらの市のごみの掲載数の平均は491.3個であった。また、詳しくない7市のうち4市は掲載数が100前後であった。全調査対象地のごみの掲載数の平均は684.6個であることから、詳しくない市のごみの掲載数の平均は、全体の平均より低いといえる。反対に詳しいという意見があるのは3市で、それらの市のごみの掲載数の平均は1436.3個であった。これは詳しくない市の2.9倍、全対象地の2.1倍にあたり、著しく多いといえる。このことから、掲載数が多いほど市民は詳しいと感じる傾向がある。

2) 早見表等のわかりやすさ

わかりやすさについて回答があった市を、各市の家電リサイクル法対象品目の排出方法、収集できないごみの問い合わせ先と比較した結果を表10に、絵の効果、早見表の有無、早見表の品目ごとの色分けの有無と比較し結果を表11に示す。

表10 家電リサイクル法対象品目の排出方法、収集できないごみの問い合わせ先との比較

項目	市名	家電リサイクル法の排出方法	収集できないごみの問い合わせ先
わかりづらい (6市)	B2市	○	×
	B5市	×	×
	B6市	×	×
	D3市	○	×
	D6市	×	×
	D8市	○	×
わかりやすい (4市)	A1市	○	△
	C9市	○	△
	D2市	○	△
	E2市	○	×

表 11 絵の効果, 早見表の有無, 早見表の品目ごとの色分けの有無との比較

項目	市名	絵の効果	早見表の有無	早見表品目ごとの色分け
わかりづらい(6市)	B2市	○	○	×
	B5市	×	×	—
	B6市	×	○	×
	D3市	○	×	—
	D6市	×	○	×
	D8市	×	×	—
わかりやすい(4市)	A1市	○	○	○
	C9市	○	○	○
	D2市	○	○	○
	E2市	×	○	○

わかりづらいという意見があるのは6市で、わかりやすいという意見があるのは4市であった。表中の○は該当する、△は一部該当する、×は該当しないを表す。

表 10 より、家電リサイクル法対象品目の排出方法について、わかりづらい市では半数が記載しておらず、対してわかりやすい市は全て記載している。このことから、市民は家電リサイクル法対象品目の排出方法を掲載している市に対し、わかりやすいと感じる傾向がある。収集できないごみの問い合わせ先について、わかりづらい市は全て掲載しておらず、わかりやすい市は4市中3市が一部情報を掲載している。市民は問い合わせ先を掲載している市がわかりやすいと感じる傾向がある。

表 11 より、効果的な絵であるかについて、わかりづらい市の6市中4市が絵が効果的ではなく、わかりやすい市の4市中3市が絵が効果的である。以上から、市民はわかりやすい絵を掲載している市に対しわかりやすいと感じる傾向がある。見表の有無と品目ごとの色分けについて、わかりづらい市では6市中3市が早見表を作成しているが、品目ごとの色分けを行っている市はない。対してわかりやすい市では、全ての市が早見表を作成しており、また品目ごとの色分けを行っている。このことから、市民にとって早見表はわかりやすく、特に品目ごとに色が分けられているとわかりやすく感じる傾向がある。

#### (4)研究全体の考察

83%の市が早見表を、60%の市がポスター状のものを作成しており、また市民からの好評な意見も多かった。市民の多様なニーズに応えるため、複数の情報物の作成は有効だと言える。

市民にとってわかりやすい早見表等の特徴は、絵の効果がある、家電リサイクル法対象品目の排出方法・収集できないごみの問い合わせ先が記載されて

いる、早見表がある、早見表が品目ごとに色分けされていることである。また多くの情報を掲載していても市民からの質問は多い場合もあるが、家庭ごみ分別早見表等を作成することによって、市で統一された回答ができる等の効果もあるため、作成することには意義があるといえる。

## 5. 結論

本研究の3つの目的に対し、結論をまとめる。

目的1：家庭ごみ分別早見表等の特徴

調査対象である150市中125市が早見表を、91市がポスター状のものを、8市がインターネットでの検索システムを作成していた。

ごみの掲載数は、150市の中では最大が2770個、最小が39個、平均は684.6個であった。

目的2：家庭ごみ分別早見表等が作成・改訂経緯

家庭ごみ分別早見表等が作成された理由としては「分別が市民にとって難しいと考えられるため」が最多であった。改訂時期・頻度は「(市の)分別区分の変更時」が最多であった。

ほとんどの市の担当者が早見表等を作成する前と比較し、「市民からの問い合わせの減少」や「分別状況の改善」など、何らかの効果を感じている。

目的3：わかりやすい早見表等の特徴

市民はごみの掲載数が多いほど、早見表等の内容が詳しいと感じる傾向がある。

効果的な絵の掲載、家電リサイクル法対象品目の排出方法や収集できないごみの問い合わせ先の記載、「早見表」がある、早見表が品目ごとに色分けされていると、市民は分かりやすく感じる傾向がある。

今後の課題を以下に述べる。市民評価はアンケートの記述欄をまとめたものであため、対象となる市・回答が少なかった。さらにアンケートの回答者が市民の率直な意見を把握しているとは限らないため、偏りのある結果となった可能性がある。実際に早見表等を使用している市民の意見を基に調査を進めるべきである。また、「わかりやすい」や「詳しい」等の抽象的な基準で調査を進めたため、筆者の主観に左右された結果になっている可能性がある。具体的で主観に左右されない基準での調査が必要である。

## 6. 参考文献

- 1) 朝日新聞(滋賀)：ゴミ分別に迷ったら～カギは容器であるか否か～、2009-08-18
- 2) 近藤文：自治体における家庭ごみ分別早見表等の内容把握と比較評価—近畿地方を対象として—、2009年度滋賀県立大学環境社会計画専攻卒業論文
- 3) CiNii：http://ci.nii.ac.jp/、2014-01-05